

Y04a 大正末期の建築指図に描かれた緯度観測所の建造物

馬場幸栄（国立民族学博物館）

国立天文台前身組織のひとつである緯度観測所は文部省直轄の機関として明治32（1899）年より天文学・地震観測学・高層気象学・報時の研究に取り組み、Z項を発見するなどの成果を挙げて近代天文学の発展に大きく寄与してきた。しかし、いまや緯度観測所の初期の様子を知る者は殆どおらず、しかも同観測所はその研究活動に合わせて敷地の拡張および建造物の増改築を繰り返して来たため、同観測所における初期の建造物配置や各建造物の内部構造および具体的用途については現在では不明な点が多い。そこで、国立天文台水沢 VLBI 観測所図書室の協力を得て、大正末期に緯度観測所が編綴した簿冊『国有財産関係書類』（国立天文台蔵）の調査を実施した。結果、同簿冊のなかから、当時の建造物配置や内部構造を詳細に記した建築指図（図面）27点が発見された。本発表では、これらの建築指図および『国有財産関係書類』本文等から判明した大正末期緯度観測所の建造物配置、建造物の内部構造および具体的用途について解説する。